

授業科目名	①		
実務経験講師	②	実務経験	③
開講年度	④ 年度	学 期	⑥
年 次	⑤ 年次	授業回数	⑦ 回
単 位 数	単位	単位時間数	時間
授業科目の概要	⑧		
授業科目の到達目標	⑨		

## 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7		⑩	
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用テキスト	⑪
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	
その他 受講生への要望等	

## ① 授業科目名

## ② 実務経験講師

講師に担当する科目に関する実務経験がある場合、「○」がついています。

実務経験とは・・・資格をもっているだけではなく、実際の施設等で資格を活かして働いた経験があるということ。

※一部を除き、違う学校で同様の科目を教えている等の教員経験は実務経験に含まれません。

## ③実務経験

担当講師の実務経験内容を簡単に記してあります。

## ④開講年度

## ⑤年次

授業を受ける学年です。

## ⑥学期

前期・・・4月～9月

後期・・・10月～3月

通年（全期）・・・1年間を通して、もしくは前期～後期にかかるどこかの期間で

## ⑦授業回数

## ⑧授業科目の概要

授業内容のたまかな説明です。

## ⑨授業科目の到達目標

授業が修了した時に到達すべき学修の目標です。

## ⑩授業スケジュールと内容

内容・・・1回の授業がどのような内容で構成されているか

授業方法・・・講義、演習、実習など

課題/小テスト・・・その授業の回に課題や小テストが課されている場合は記載されます。予習の内容が書かれている場合もあります。

## ⑪使用テキスト

授業で使用するテキストの情報です。プリント等オリジナル教材を使用する場合もあります。

授業科目名	統計学【夜間部】		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2023年度	学 期	前期
年 次	3年次	授業回数	8回
単 位 数	1単位	単位時間数	15時間
授業科目の概要	統計の意義、目的を理解する 主な統計手法を学ぶ 統計の活用法を学ぶ		
授業科目の到達目標	統計学を学び、ヒトの健康事象を扱う保険統計を理解する。 保健情報で保健・医療・福祉などの健康に関する情報を判断する能力を養う。 疫学を学び疾病の原因と結果の因果関係を理解する。 政府統計を理解する。		

### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	統計学について、保健統計とは何か 保健統計学の目標、種類、国家統計調査	講義 スライド	
2	疫学総論 健康障害の発生要因、方法論	講義 スライド	
3	疫学の分析手順、観察研究	講義	図表作製
4	保健統計の方法 調査方法の分類、有病と罹患	講義	小テスト
5	検定について(t検定と $\chi^2$ 検定) 選定法の選択、実際	講義 スライド	
6	データの表現、特性 棒、折れ線、円、帯、ヒストグラム、散布図、相関図	講義	図表作製
7	情報の保護と倫理 情報社会の特性と問題点 インターネットと情報倫理	講義 スライド	小テスト
8	定期試験		

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 3 保健情報統計学
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	保健指導 衛生学
この授業科目から発展する主な科目	衛生学、歯科保健指導、公衆衛生学 歯科予防処置、栄養学

成績評価の方法	定期テスト 90%、授業態度 10%
その他 受講生への要望等	欠課、遅刻のないよう受講して下さい。 3年次④での科目となり、国家試験問題も併せて学んでいただきます。

授業科目名	栄養学【夜間部】		
実務経験講師	○	実務経験	管理栄養士
開講年度	2023年度	学 期	前期
年 次	3年次	授業回数	8回
単 位 数	1単位	単位時間数	15時間
授業科目の概要	<p>私たちの体は、五大栄養素をもとに構成されている。豊かに食料が供給されている中で、その摂取状況の過不足は国民の健康とかがわっている。口腔は食物の入り口であり、栄養素と直接関係する疾患が存在する。</p> <p>歯科衛生士は、口腔の健康を維持・増進する役割を担っていることをふまえ、栄養学を学ぶ。</p>		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養学の必要性について説明できる。</li> <li>2. 五大栄養素について説明できる。</li> <li>3. 栄養素の消化吸収および働きについて概説できる。</li> <li>4. 食事摂取基準について概説できる。</li> <li>5. ライフステージと栄養について概説できる。</li> </ol>		

### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	栄養の基礎知識。栄養素の働き(糖質・タンパク質)	講義	課題:食事調査、小テスト
2	栄養素の働き(タンパク質・脂質)	講義	小テスト
3	ビタミンとミネラルの働きと役割と必要性	講義	小テスト
4	水と食物繊維・生活習慣病とのかかわり	講義	小テスト
5	推定エネルギー必要量・基礎代謝、日本人の食事摂取基準	講義	小テスト
6	食生活と健康との関連、望ましい食生活	講義	小テスト
7	ライフステージ別の栄養と調理 食物と健康の関連、歯の健康	講義	小テスト
8	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	<p>歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 2 栄養と代謝          全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版会社</p>
参考書・資料 等	<p>「消化・吸収・代謝と栄養素のすべてがわかるイラスト図鑑」メディカ出版          「歯科衛生士国試対策集 2021年対応第1～29回全重要問題解説集」          クインテッセンス出版株式会社</p>
この授業科目の前提となる主な科目	人体の構造と機能、歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み、歯科保健指導論
この授業科目から発展する主な科目	講義科目:栄養学→実習科目:歯科保健指導論
成績評価の方法	<p>定期試験(90%)、講義への参加態度(10%)          最終評価は総合評価。</p>
その他 受講生への要望等	<p>きちんとノートをとること。          課題提出のルール:講義開始前に回収できるよう出席番号順に並べて準備すること。          授業のまとめとして国家試験の過去問を小テストで行う。</p>

授業科目名	口腔病理学【夜間部】		
実務経験講師	○	実務経験	歯科医師
開講年度	2023年度	学 期	前期
年 次	3年次	授業回数	8回
単 位 数	1単位	単位時間数	15時間
授業科目の概要	口腔病理学は口腔内に現れる異常を学びます。 歯科衛生士として口腔内を観察し正常なのか異常があるのか、異常があるならそれが何かを理解することで治療へと繋がります。		
授業科目の到達目標	1 口腔の正常な状態を説明できる 2 口腔の異常を識別できる 3 全身疾患と関連した関連した異常を説明できる 4 先天異常を識別できる 5 異常の原因を説明できる		

### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	口腔病理の概要について 1章 歯の発育異常	講義	
2	2章 歯の損傷と着色・付着物 3章 う蝕	講義	
3	4章 象牙質・歯髄複合体の病態 5章 歯周組織の病態	講義	
4	6章 口腔粘膜の病変 7章 口腔領域の嚢胞と腫瘍	講義	
5	8章 口腔癌 9章 顎骨の病変 10章 唾液腺の病変	講義	
6	11章 口腔領域の奇形 12章 口腔組織の加齢変化	講義	
7	口腔病理総復習、まとめ	講義	
8	定期試験	定期テスト	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 1 病理学・口腔病理学 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
参考書・資料 等	なし
この授業科目の前提となる主な科目	病理学

この授業科目から発展する主な科目	口腔外科学
成績評価の方法	定期テスト
その他 受講生への要望等	

授業科目名	衛生行政・福祉論【夜間部】		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2023年度	学 期	前期
年 次	3年次	授業回数	15回
単 位 数	2単位	単位時間数	30時間
授業科目の概要	福祉について考え、社会生活を営んでいく上での社会規範を知り、歯科衛生士に関する法規を学びその知識を身につける。		
授業科目の到達目標	①衛生行政の概要(目的・組織 他)を理解し「衛生法規の分類」が記述できる。 ②歯科関係三法の概要(細則・免許・試験・業務)を記憶し歯科衛生士の業務について説明ができる。 ③社会保険と社会福祉の体系を理解し記憶する。 ④歯科衛生士国家試験に向けた試験対策知識を理解し身につける。		

### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	衛生行政の目的 福祉について考える	講義・演習	教科書を良く読んでくる。
2	保健・医療・福祉の制度の概要	講義	前回の小テスト
3	法規の種類と概要	講義	前回の小テスト
4	歯科関係 3 法について 歯科医師法・歯科技工士法	講義	前回の小テスト
5	歯科衛生士法	講義	前回の小テスト
6	医療動向	講義	前回の小テスト
7	社会保障について 社会保障の定義と内容	講義	前回の小テスト
8	社会保障行政機構の概要	講義	前回の小テスト
9	社会福祉について 社会福祉行政	講義	前回の小テスト
10	中間試験 医療保険について・医療保険の概要	講義	教科書を良く読んでくる
11	税金の仕組み・年金制度について	講義	前回の小テスト
12	介護保険制度	講義	前回の小テスト
13	障害者の福祉制度	講義	前回の小テスト
14	精神保健・災害時の精神保健	講義	前回の小テスト
15	定期試験	講義	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 歯科衛生士と法律・制度
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	公衆衛生学・保健指導論
この授業科目から発展する主な科目	公衆衛生学

成績評価の方法	定期試験・授業態度
その他 受講生への要望等	法律や制度は大変難しいので、良く予習復習して少しずつ理解していきましょう。

授業科目名	医療安全【夜間部】		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2023年度	学 期	前期
年 次	3年次	授業回数	15回
単 位 数	2単位	単位時間数	30時間
授業科目の概要	1. 医療安全と感染予防について理解し実践できる。 2. 成人・小児等の一次救命救急に対する理解と実践ができる。 3. 誤嚥・アナフィラキシーショック・低血糖発作・止血などの一般的な救急対応と処置について理解ができる。 4. 主要疾患とその対応について理解できる。 5. 臨床検査データとその意味について理解できる。		
授業科目の到達目標	国家試験に向けた試験対策知識を理解することができる。		

### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	医療安全及び、ヒヤリハット・アクシデントの意味と対策	講義	
2	救急蘇生法とバイタルサイン	講義	
3	スタンダードプレコーション	講義	
4	感染予防策	講義 実習	実習記録
5	滅菌・消毒、医療廃棄物の取扱い	講義 実習	実習記録
6	全身疾患の基礎知識と口腔内、歯科診療上の注意点	講義	
7	口腔領域のがん	講義	
8	周術期における歯科診療	講義	
9	訪問歯科診療における対応	講義	
10	臨床検査データとその意味	講義	
11	バイタルサインの測定①	講義 実習	実習記録
12	バイタルサインの測定② AEDの取扱い	実習	実習記録
13	口腔領域の臨床検査①	実習	実習記録
14	口腔領域の臨床検査②	実習	実習記録
15	定期試験	定期テスト	

使用テキスト	全国歯科衛生士教育協議会監修 歯科診療補助論
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	解剖学、生理学、生化学
この授業科目から発展する主な科目	歯科診療補助論

成績評価の方法	定期試験(95点) 出席・忘れ物・態度状況(5点)
その他 受講生への要望等	

授業科目名	実習指導Ⅲ【夜間部】		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2023年度	学 期	通年
年 次	3年次	授業回数	30回
単 位 数	2単位	単位時間数	60時間
授業科目の概要	歯科衛生士として様々な活躍の現場を知り、それぞれのどのような知識や技術が必要かを考え、習得していく科目です。		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の特徴がわかる</li> <li>2. 認知症や全身疾患を理解し、安全を考慮した対応ができる</li> <li>3. 高齢者に対する口腔保健指導ができる</li> <li>4. 大学病院の口腔外科での診療内容を把握する</li> <li>5. 衛生・不衛生の概念をしっかりと把握する</li> <li>6. 小外科手術のアシストができる</li> <li>7. 保健指導や予防処置を実践できる</li> </ol>		

### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	臨床実習 実習の手引き 3年次実習目標 到達目標 身だしなみ 【キーワード】感染予防 症例に応じた器具・器材	講義	課題 実習所場所や交通手段の確認 治療の流れ
2	歯科医院実習指導① 日誌の記入の方法 診療記録の読み方 【キーワード】業務管理 術式	講義 演習	
3	歯科医院実習指導② 日誌の記入の方法 診療記録の読み方 【キーワード】業務管理 術式	演習	
4	臨床実習前オスキー試験① ・オスキー試験 ・歯牙模型の配列試験	試験	
5	臨床実習前オスキー試験② ・オスキー試験 ・歯牙模型の配列試験	試験	
6	臨床実習前オスキー試験③ ・オスキー試験 ・歯牙模型の配列試験	講義	
7	臨床実習前オスキー試験④ ・オスキー試験 ・歯牙模型の配列試験	講義 演習	
8	臨床実習Ⅲ－Ⅰの振り返り	講義	
9	臨床実習Ⅲ－Ⅱ、大学病院実習について	講義	

10	大学病院実習指導① ・概要 ・事前学習 ・日程・単位・評価について 【キーワード】 病院歯科の役割 受診の流れ	講義	課題 実習所の場所、交通手段の確認 課題 全身疾患や口腔疾患についての レポート①
11	大学病院実習指導② 口腔外科領域 【キーワード】 病院歯科の役割 受診の流れ	講義	課題 全身疾患や口腔疾患についての レポート②
12	大学病院実習指導③ 口腔外科領域 【キーワード】 病院歯科の役割 受診の流れ	講義	課題 全身疾患や口腔疾患についての レポート③
13 14	摂食嚥下の講義	講義	
15	大学病院実習事前学習① 悪性腫瘍・良性腫瘍について	講義	
16	大学病院実習事前学習② 口唇・口蓋裂	講義	
17	大学病院実習事前学習③ 病院内の集中治療室について 清潔域・不潔域など	講義	
18	大学病院実習事前学習④ 嚥下機能障害(VF・VE)	講義	
19	大学病院実習事前学習⑤ 難抜歯について	講義	
20	大学病院実習事前学習⑥ オスキー試験	講義	
21	大学病院実習 事前講義①	講義	
22	大学病院実習 事前講義②	講義 演習	
23	大学病院実習 事前講義③	講義 演習	
24	大学病院実習指導④ 手洗い 外科用グローブ等の取り扱い 外科器具の取り扱い	講義 演習	
25	大学病院実習指導⑤ 手洗い 外科用グローブ等の取り扱い 外科器具の取り扱い	講義	
26	大学病院実習指導⑥ 縫合の準備	講義	
27	大学病院実習事前学習⑥ オスキー試験	試験	
28	大学病院実習 実習前確認テスト	試験	

29	オリエンテーションの確認	講義	
30	臨床実習、大学病院実習 振り返り	講義	

使用テキスト	最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」「歯科予防処置論・歯科保健指導論」「高齢者歯科」
参考書・資料 等	ポケットマニュアル
この授業科目の前提となる主な科目	「歯科診療補助論」「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 「高齢者歯科」
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	出席状況(70点)、高齢者についてのレポート(20点) 実習の振り返り(10点)
その他 受講生への要望等	課題は提出期限を守ってください 体調を整えて、欠席をしないようにしましょう。

授業科目名	臨地・臨床実習Ⅲ【夜間部】		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2023年度	学 期	通年
年 次	3年次	授業回数	—
単 位 数	10単位	単位時間数	450時間
授業科目の概要	学内で学んだ知識・技術・態度をもとに、歯科医療現場で実践実習を行います。 様々な歯科医療現場での歯科衛生士の役割を認識し、責務を自覚した行動がとれる能力を養うための実習です。		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歯科衛生士の公衆衛生活動を知る</li> <li>2. 乳幼児への歯科衛生指導の内容がわかる</li> <li>3. 高齢者施設での歯科衛生活動の内容がわかる</li> <li>4. 歯科診療所で歯科予防処置ができる</li> <li>5. 歯科診療所で歯科保健指導ができる</li> <li>6. 大学病院と一般歯科診療所の違いがわかる</li> <li>7. 要介護者、全身疾患患者への対応ができる</li> <li>8. 多職種連携の中での歯科衛生士の役割がわかる</li> </ol>		

### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
	歯科医院実習(臨床実習Ⅲ－Ⅰ)	7時間×31日 8時間×1日(225時間)	臨地・臨床実習日誌 実習後振り返り
	歯科医院実習(臨床実習Ⅲ－Ⅱ)	7時間×26日 8時間×1日(190時間)	臨地・臨床実習日誌 実習後振り返り
	大学病院実習(臨地実習)	7時間×5日(35時間)	臨地・臨床実習日誌 実習後振り返り

使用テキスト	新人歯科衛生士・デンタルスタッフ ポケットマニュアル 医歯薬出版株式会社
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	臨地・臨床実習Ⅰ、臨地・臨床実習Ⅱ、実習指導Ⅲ
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	出席状況(5割)、実習先担当者の評価・実習評価(5割)
その他 受講生への要望等	校外実習のため、指導者の指示に従い実習を行うことになります。 学生としての謙虚さと、歯科衛生士としての現場に出るという意識をもって臨んでください。

授業科目名	知識の統合【夜間部】		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2023年度	学 期	後期
年 次	3年次	授業回数	15回
単 位 数	2単位	単位時間数	30時間
授業科目の概要	これまでの学習した知識を統合し、臨床で応用できる能力を養う		
授業科目の到達目標	これまでの学習した知識を統合し、臨床で応用できる能力を養い知識の理解を深める		

### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	う蝕活動性試験 フッ素応用	講義	
2	フッ素中毒量算出方法 フッ素量算出方法 フッ化ナトリウム算出方法	講義	
3	歯周疾患予防の臨床	講義	
4	歯周疾患に用いる指数	講義	
5	口腔清掃と口腔観察 付着物・沈着物について 化学的プラークコントロール	講義	
6	歯ブラシ(種類、名称、形態、管理)について 各種ブラッシング法 プラークコントロールの補助用具	講義	
7	食生活と口腔保健、バランスガイド、BMI 口腔保健の意義、健康の概念、予防3相	講義	
8	法律と制度 地域保健・公衆衛生 プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーション、健康日本21(目標値) 歯科疾患実態調査について	講義	
9	感染症について 滅菌、消毒、洗浄について 感染症廃棄物の取り扱いについて	講義	
10	歯科材料の取り扱いについて セメントの種類 仮封材について 印象材について	講義	

11	全身疾患患者への対応(薬) 全身疾患患者への対応(介助)(偶発時の対処)	講義	
12	歯科予防法の総まとめ	講義	
13	歯科保健指導の総まとめ	講義	
14	歯科診療補助の総まとめ	講義	
15	定期試験	試験	

使用テキスト	最新歯科衛生士教本「保健生態学」「歯科診療補助論」「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	歯科診療補助論、歯科保健指導論、歯科予防処置論、高齢者歯科学、口腔衛生学、公衆衛生学
この授業科目から発展する主な科目	臨床実習Ⅲ-Ⅱ
成績評価の方法	出席、授業態度、実技試験、筆記試験で総合的に判断
その他 受講生への要望等	施設実習に向けて応用できるように能力を養いますので重要な科目となります。 欠席の無いようにしてください。

授業科目名	特別活動Ⅲ【夜間部】		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2023年度	学 期	後期
年 次	3年次	授業回数	15回
単 位 数	2単位	単位時間数	30時間
授業科目の概要	職業人として必要なマナーを身につけ、歯科衛生士を目指すモチベーションを高めていきます。また、国家試験に向けての学力向上を目指します。		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各行事を通じ、協調性を身につける</li> <li>2. 職業人としての常識が理解できる</li> <li>3. 国家試験へ臨む心構えを育む</li> <li>4. 国家試験に対応できる能力を身につける</li> </ol>		

### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題/小テスト
1	オリエンテーション	講義	
2	第32回 国家試験	演習	
3	第32回 国家試験	演習	
4	校内模試 第1回	演習	
5	校内模試 第2回	演習	
6	校内模試 第3回	講義	
7	就職ガイダンス	講義	
8	IPF 多職種連携合同授業	講義	
9	IPF 多職種連携合同授業	演習	
10	模擬試験 医歯薬出版 ①	演習	
11	模擬試験 医歯薬出版 ②	演習	
12	模擬試験 医歯薬出版 ③	演習	
13	模擬試験 医歯薬研修協会1回目	演習	
14	模擬試験 医歯薬研修協会2回目	演習	
15	国家試験 オリエンテーション	講義	

使用テキスト	最新歯科衛生士教本 各種、過去問題集
参考書・資料 等	医歯薬研修協会 講義資料
この授業科目の前提となる主な科目	全て
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	出席状況(8割)、態度(2割)
その他 受講生への要望等	歯科衛生士となるに向けての大切な授業です。 体調管理を行うことも医療人としてとても大切な事ですので、気を引き締めて欠席のないようにしましょう。

授業科目名	総合歯科医学【夜間部】		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2023年度	学 期	前期
年 次	3年次	授業回数	15回
単 位 数	2単位	単位時間数	30時間
授業科目の概要	臨床に沿った治療の流れやそのベースとなる知識の定着を図る 国家試験に向けての対策のための		
授業科目の到達目標	歯の口腔の基礎知識の理解する う蝕の治療法(保存療法学・修復学)の理解する 歯周病の分類～歯周外科まで 歯周療法の理解する 口腔外科学を理解する 小児歯科学を理解する 歯科矯正学を理解する 歯科補綴学を理解する		

### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	歯の口腔の基礎知識	講義	
2	窩洞の分類 治療法 術式 使用器具について	講義	
3	直接修復法 術式 使用器具について 歯冠分離法、隔壁法、ラバーダム防湿法	実習	
4	間接修復法 術式 使用器具について 保存修復のまとめ・復習	講義	
5	歯肉炎と歯周炎について 歯周病の流れ、歯周病のリスクファクター SPTとメンテナンス	講義	
6	歯周外科治療の流れ 歯周療法のまとめ・復習	講義	
7	歯髄炎 覆髄法	講義	
8	根管治療(抜髄、根治、根充)	講義	
9	義歯の製作工程	講義	
10	CAD/CAM その他の補綴物	講義	
11	難抜歯 術式 使用器具について 腫瘍、口腔がんについて	講義	
12	小児の口腔の発達(ヘルマン、空隙) 歯の形成異常、補隙装置	講義	
13	乳歯の歯内療法、補綴 小児のまとめ・復習	講義	

14	マルチブラケット装置 可撤式矯正装置について	講義	
15	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	歯周病学、歯科保存療法学、歯科修復学、歯科矯正学、歯科補綴学、歯科口腔外科学、小児歯科学
参考書・資料 等	医歯薬研修協会 ファイナルアタック
この授業科目の前提となる主な科目	歯周病学、歯科保存療法学、歯科修復学、歯科矯正学、歯科補綴学、歯科口腔外科学、小児歯科学
この授業科目から発展する主な科目	国家試験対策
成績評価の方法	筆記試験(80点)出席、授業態度(20点)
その他 受講生への要望等	国家試験の対策の授業となります。1つ1つの授業が重要になってきます。 欠席の無いようにしてください。